

ファシリテーションスキルを実践的に学ぶ

看護倫理カンファレンスファシリテーター養成講座 Step 2 (集合研修) 開催

一般社団法人 日本看護倫理学会
看護倫理カンファレンスファシリテーター養成委員会

臨床で必須となった 「倫理カンファレンス」

皆さま方の組織では、「倫理カンファレンス」は効果的に実施されているでしょうか？ 現在、病院機能評価においては、臨床における倫理的課題、患者・家族の倫理的課題への取り組みが継続的に実施されていることが評価されます。また、医療施設には「身体拘束最少化チーム」を設置し、多職種によるカンファレンスを開催することが要件として求められるようになりました。このように、倫理カンファレンスの開催は臨床において「義務化」されたと言えるでしょう。しかし、現場のスタッフからは「難しい」「答えが出ない」「モヤモヤしたまま終わる」といった苦手意識の声が聞かれることが多いように思います。こうした背景を踏まえて、日本看護倫理学会では2023年より、倫理カンファレンスにより具体的なケアに結びつけられるよう「看護倫理カンファレンスファシリテーター養成事業」を始めました。

看護倫理カンファレンス ファシリテーター養成事業の概要

本事業は、「Step 1: eラーニングで倫理の基礎知識を学ぶ」と「Step 2: 集合研修でファシリテーションスキルを学ぶ」の2段階で構成されています。

[Step 1] eラーニングで 倫理の基礎を学ぶ

Step 1のeラーニングは10時間のコースで、倫理学概論、看護倫理、組織倫理、事例検討の方法など、基礎知識をしっかりと学ぶことができます。倫理の諸概念の知識は、倫理的問題を特定した

り、解決策の言語化を助けてくれます。看護師には説明責任がありますので、言語化できることは重要なスキルです。また、事例検討の方法は、カンファレンスに道筋をつけてくれます。

[Step 2] 集合研修で実践を学ぶ

Step 1を終えたら、Step 2で1日の体験型の研修を通してファシリテーションスキルを学びます。この研修のゴールは「看護倫理カンファレンスに役立つ『ファシリテーションスキル』を学び、仲間と共にカンファレンスの実践に役立てていきたいと考えていること」です。プログラムの作成には、ナースファシリテーターの浦山絵里先生にお力添えいただきました。

集合研修の実際

2025年11月16日(日)、株式会社医学書院の会場を借りて、第3回目のStep 2: 集合研修を開催しました。その時の様子をご紹介します。

◎アイスブレイク: 参加者同士の関係性を深める

参加者の皆さまは集合時間より早く、遠くは鹿児島県などから会場に到着されました。席はあらかじめ、ランダムに決められています。テーマは、「倫理カンファレンスに活かすファシリテーション——身近なところでジレンマを語ろう」です。最初はコミュニケーションの基本的なことを基に、自己紹介などで関係性を深め、徐々に話しやすい雰囲気をつくっていきます。当日の流れは図に示す通りです。

◎デモカンファレンスの実施と観察

その後、実際に何人かの方に参加して

もらいデモカンファレンスを実施し、その様子を他の参加者が観察します。カンファレンスに参加することで分かることもありますが、カンファレンスを外から観察することで改めて分かることも多いのです。

そもそもカンファレンスとは、その場に集まった人たちで知恵を出し合い、新しいものを生み出す場です。ファシリテーターは参加者が話しやすいように場を進行する、公正で公平で中立的な立ち位置であり、決してアドバイザーではないことをデモカンファレンスを通して学ぶことができます。

デモカンファレンス後は、実際にファシリテーターがやっていたことをもとに、解説的に5つのファシリテーションスキルを学び、その後全員がファシリテーターを体験する時間となります。

◎参加者全員がファシリテーターになり その役割とプロセスを体感する

この講座の特徴は、実際のファシリテーターの振る舞いやスキルから学び、そのまま実践をしてみるプロセスにあります。ですから参加者全員がファシリテーターの実践をし、終了後すぐに振り返りをする中で、コンテンツではなくプロセスを進行することを経験し、「ファシリテーターは公平で公正で中立的にその場をホールド(保持)していくことが役割である」ことを体感できるのです。

最後に倫理カンファレンスで実践的に使える「4ステップモデル」¹⁾の紹介もあり、状況に合わせて倫理カンファレンスのフレームを持ち帰ることができるのも特徴となっています。

◎対話を積み上げ、参加者同士のネットワークを築く仕掛け

またこの講座では、途中で小さな対話が積み上がる構成になっています。もともと知り合いではなかった参加者が、徐々に顔見知りになり、休憩時間などにも現場での困りごとなどが話されるようになります。このように、1日を通して対話によるエンパワメントが生まれることを実感でき、ファシリテーションの効果を知ることができます。体験から生まれた参加者同士のネットワークが、これから先の新たな知見を生み出したり、共有する場につながることを願っています。

◎参加者の声

当日のアンケートでは「ファシリテーターをまずやってみようと思った」「講義が（ファシリテーションスキルを）実体験しながら進められていたので分かりやすかった」「さまざまな人と関わり、話すことの大切さを理解できた」といった声が上がっています。

研修受講後のフォローアップ

本事業では、受講後のフォローも行っています。Web上で情報交換の場を設けて、受講生がファシリテーターを実践してみた感想などを自由に発信したり、自施設で行った工夫や困りごとなどを共有したり相談しながら、参加者同士で意見交換ができることが特徴です。もちろん、看護倫理カンファレンスファシリテーター養成委員会メンバーもその中で共に考え、支援していきたいと考えています。また今後、この先につながるプログラムも検討しております。

研修事業のアウトリーチ

まずは、多くの方にご参加いただき、実践現場でよりよい看護に向かうために、そしてスタッフの支援に向けてこのプログラムを活用していただけるように、団体申し込みも始めました。研修会場の提供や、研修開催までのコーディネートが可能な団体・組織がありましたら、そちらに委員会チームで伺うことも

図 集合研修のプログラム (2025年11月16日開催の内容)

〈今日のながれ〉 知り合いタイム 現場を語る時間 やってみよう、みてみよう 講義（体験の意図ひらき） 昼食 体験ワーク ふりかえり これからにつなげる時間 まとめ、チェックアウト お茶べり会（任意）	〈今日の役割〉 皆さん：参加者 よりよい看護倫理カンファレンスをしていきたいと思う仲間 看護倫理カンファレンスファシリテーター養成委員会 ：企画、運営
〈時間〉 9：00～16：00 お昼は60分	〈お約束〉 ①よく聴き合い、短く話そう ②違う見方をたのしむ （否定しない） ③無理はしない 「分からない」を大切に 仲間と協力する 自分自身とも対話してみる

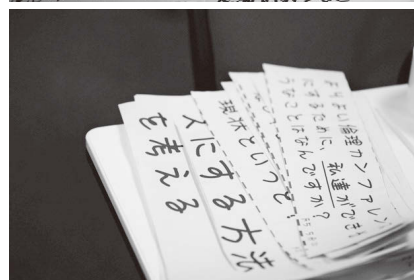
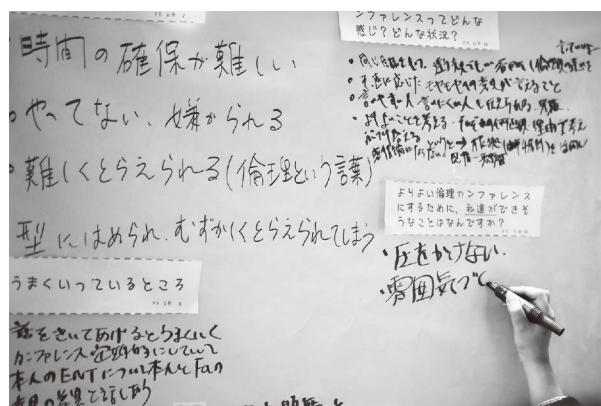


写真 デモカンファレンス

可能です。詳しくは学会 web サイトにてご確認ください。

ファシリテーションスキルを 日々のケアに活かす

ここまで、日本看護倫理学会で行っている看護倫理カンファレンスファシリ

テーター養成事業について紹介しました。

ファシリテーションは「〇〇をしやすくする」という意味を持つ言葉が語源となっています。「患者の自己決定をしやすくする」という意味では、看護師は常にファシリテーターとしてケアを推進しているのですが、ややもすると結論がす



写真 ファシリテーター実践の様子①



写真 ファシリテーター実践の様子②



写真 これからにつなげる振り返り



写真 研修参加者一同での集合写真

ぐに出ないことや、「このようにしなければならぬ」という呪縛にかかってしまい、自分たちの話し合いを苦しいものに行っているように感じます。

日本看護倫理学会では、今後もファシリテーター養成を推進していきますが、これは倫理カンファレンスだけにとどまらずさまざまな場面で活用できるスキルとなります。

多くの皆さまの本研修への参加をお待ちしております。

一般社団法人 日本看護倫理学会
看護倫理カンファレンスファシリテーター養成研修
<https://www.jnea.net/seminar/elearning/>



※今後の「Step 2 集合研修」の開催予定は随時 Web サイトにて更新
<https://www.jnea.net/seminar/>

- ・2026年1月25日（日）9：00～16：00
福岡大学病院（福岡県）
- ・2026年6月19日（金）9：00～16：00
くにびきメッセ（島根県）



■問い合わせ先
看護倫理カンファレンスファシリテーター養成委員会事務局
jneacf@gmail.com

引用・参考文献

- 1) 小西恵美子編：看護倫理―よい看護・よい看護師への道しるべ 改訂第3版. 南江堂, 2021.